

土生の子安地蔵（土生地区）

土生の子安地蔵は、県道22号線の植野交差点から250mほど南に行った地点にあります。この場所は「土生地蔵の辻」と刻まれた石柱が建てられているように、古くから街道の交差点であった場所です。地蔵が安置されているお堂は、かつては今より少し北側にあったようですが、平成5年（1993年）に現在の場所に建て替えられました。

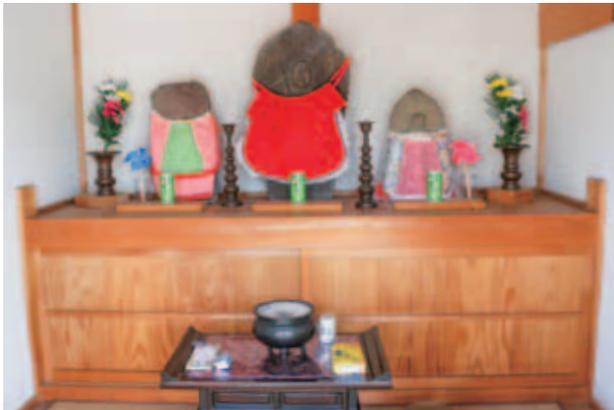
お堂の内部には江戸時代には作られた2体の石の地蔵と1基の板碑（板石を用いた供養塔）が



お祀りされています。向かって左側の板碑には、五輪塔を薄肉に彫刻しており、作られた時代は地蔵よりも古く、室町時代頃まで遡る可能性があります。

土生の子安地蔵に関わる由来や伝承については明らかではありませんが、子安地蔵として信仰され、子どもの玩具として親しまれてきた風車がお供えされているので、特に子どもたちを守護する仏として信仰されてきたと考えられます。また、街道の交差点にお祀りされていることから、悪霊や疫病の侵入を防ぎ、行路の安全を保障してくれる神である

「道祖神」信仰とも結びついたものと考えられます。今も昔も変わらず、地域の人々を見守ってくれる土生の子安地蔵は、土生地区で毎年4月24日に会式が行われるそうです。



板碑（高さ48cm）